

天皇后両陛下のご臨席を仰ぎ開催

去る9月28日(土)～29日(日)、当会の創立60周年記念大会をグランドニッコー東京台場にて、天皇后両陛下のご臨席のもと、開催いたしました。全国各地から重症心身障害児者の家族を始め、行政・医療・教育・福祉・施設関係者・ボランティアなど約850名が参加しました。

大会一日目の式典では、主催者挨拶の後、「天皇陛下のおことば」、「来賓祝辞」、続いて「体験発表」を行いました。

主催者挨拶では安部井聖子会長が「昨年2月、北浦雅子前会長が逝去し、深い悲しみにある中、私たちは先人の努力を思い、子どもたちの命と生活を守り抜くことを誓いました。私たちはこれからも子どもたちに教えられ、導かれながら、社会の皆様のご理解、ご支援をいただけるよう更なる努力を続けてまいります」と挨拶。

天皇陛下のおことばは、はじめに「このたびの大雨や、年初の能登半島地震により被災された方々が一日でも早く、安心できる生活に戻ることを願います」と被災地へのお見舞を述べられました。

続いて当会の活動に対し、「60年前、社会の関心が低い中、苦悩を共にする親たちがこの会を結成し、子どもたちの命を守り、育んできた努力に敬意を表します」とされた上で、「重い障がいのある人たちが、施設においても地域においても、かけがえのない人生を豊かに生きていくことのできる社会が続いていくことを望みます」とおことばを賜りました。

終わりに、「最も弱いものをひとりももれなく守る」という理念に基づいて始められたこの会が、重い障害のある人たちに對する社会の理解を更に深め、それぞれの生き



おことば

る道について、様々な可能性を引き出していくことを期待します」と述べられ、重症心身障害児者にお心を寄せていただきました。続いて、来賓の方々4名から温かいご祝辞を賜りました。

天皇陛下おことば

挨拶に先立ち、この度の大雨により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。特に能登半島では、年初の地震からの復旧・復興への歩みを進める中で大きな被害が生じたことに心を痛めており、被災された方々が安心できる生活が一日も早く戻ることを心から願っています。

全国重症心身障害児(者)を守る会が創立60周年を迎え、ここに記念式典が催されることを誠に喜ばしく思います。

この会は、心身に重い障害のある子どもの、人間としての尊厳と命を守りたいという親たちの切実な願いによって、昭和39年に発足しました。その当時、福祉に対する人々の関心はまだ低く、知的にも身体的にも重い障害のある子どもを持った親たちの苦労は、今日からは計り知れないものがあつたと思います。苦悩を共にする親たちが、厳しい状況の中で、この会を結成し、互いに手を携えて子どもたちの命を守り、子どもたちを大切に育んできた努力に心から敬意を表します。また、困難に立ち向かう親たちを励まし、重い障害のある人たちを支援してきた関係者の献身的な活動にも大きなものがあると思います。

会の発足当時と比較して、重い障害のある多くの人が、医学の進歩により命を助けられ、医療と福祉に支えられながら、生きる力を絶やすことなく、明るい笑顔を見せて生活していると聞いています。同時に、近年のコロナ禍においては、施設に入所中の人たちが、家族との面会の機会を長期間閉ざされるなど、困難な状況にあつたと聞きます。このような経験を乗り越え、重い障害のある人たちが、親や周囲の人々の愛に支えられて、この大会に参加していることをうれしく思います。そして、重い障害のある人たちが、施設においても、地域においても、かけがえのない人生を豊かに生きていくことのできる社会が続いていくことを望んでいます。

「最も弱いものをひとりももれなく守る」という理念に基づいて始められたこの会が、重い障害のある人たちに対する社会の理解を更に深め、それぞれの生きる道について、様々な可能性を引き出していくことを期待いたします。今後とも、多くの人々の理解と協力により、重症心身障害児者の福祉が一層充実していくことを願い、式典に寄せる言葉といたします。

東京都知事 小池百合子様、内閣府こども政策担当大臣 加藤鮎子様（代読…こども政策担当副大臣 工藤彰三様）、厚生労働大臣 武見敬三様（代読…厚生労働副大臣 宮崎政久様） 文部科学大臣 盛山正仁様（代読…文部科学大臣政務官 本田顕子様）

そして体験発表（2名）では、まず在宅の重症児者の親の立場から東京都支部の樋口てるみさんが、次に施設入所の重症児者の親の立場からは愛知県支部の廣中郁子さんが、それぞれお子さんの誕生からこれまでに感じたこと、嬉しかったこと、悩んだこと、そして、今願うことなどについて発表されました。

最後に、故北浦雅子会長を支え、会長代行を務めた小山西京子近畿ブロック長が「ちかいの言葉」として、「これからも重症心身障害児者のみならず、様々な病気・障害・社会的養護を必要とする人たちや貧困など、弱い立場の人々の生きる権利と幸せを守るため、皆様と力を合わせてまいりますこと

をここに誓います」と述べ、記念式典は終了し、参加者の拍手で両陛下をお見送りいたしました。

夜は「感謝の集い」第1部として、長年、当会がお世話になっている個人・団体に感謝の気持ちを伝える、感謝状贈呈式を行いました。

当日ご出席いただいた6団体の皆様に、安部井会長から感謝状を贈呈いたしました。贈呈式に続いて、正派若柳流若柳会の方々による日本舞踊をご披露いただきました。毎年12月に開催される若柳会のチャリティショウによる当会へのご寄付は、昭和41年から昨年までで53回を重ねています。心から感謝申し上げます。

第2部は、来賓を代表しての野村知司厚生省社会援護局障害保健福祉部長の祝辞、法人守る会倉田清子理事長の乾杯の発声で「感謝の集い」が和やかに開かれました。これは年に1度の全国の会員同士の交流の場、そして日頃お世話になっている医療・教育・福祉・行政他の方々に感謝を捧げる

場となりました。

大会二日目の特別講演では、講師に、元厚生労働事務次官で、現社会福祉法人全国社会福祉協議会村木厚子会長を迎え、「支えること 支えられること」をテーマにお話しいただきました。

村木会長は厚生労働省時代に郵便不正事件で冤罪を被り、逮捕・起訴されましたが、その後、無罪が確定し復職されました。そうしたご自身の辛い体験にも触れながら、また、現在、全社協会長をはじめ、さまざまな団体・組織の要職を歴任されているお立場からの貴重なお話をいただきました。特別講演の内容につきましては、本誌第770号（令和7年1・2月号）に掲載を予定しています。

最後に、来年度開催予定地である北海道ブロックの太田由美子ブロック長が挨拶し、来年の再会を誓い合い、二日間の創立60周年記念大会の全日程を終了しました。

全国重症心身障害児(者)を守る会 創立60周年記念大会

敬称略（※肩書は大会開催時のもの）

と き：令和6年9月28日(土)～29日(日)

ところ：グランドニッコー東京 台場

【第1日目】9月28日(土)

14:20～15:00 式典（司会：村山千代）

開式の辞

主催者挨拶

来賓祝辞

体験発表〈在宅代表〉

〈施設代表〉

ちかいの言葉

閉式の辞

当会会長

東京都知事

こども政策担当大臣

厚生労働大臣

文部科学大臣

(本人)

安部井聖子

小池百合子

加藤 鮎子

武見 敬三

盛山 正仁

樋口てるみ

樋口健太郎

廣中 郁子

小山 京子

17:00～19:30 感謝の集い（司会者：藤澤喜一副会長）

【第一部】

主催者挨拶

感謝状・記念品贈呈

受賞者挨拶

日本舞踊披露・挨拶

当会副会長（開催地ブロック長）

東京銀座ロータリークラブ土曜会代表

正派若柳流若柳会会長

雨宮 孝久

福原 恵子

若柳 宗樹

【第二部】

来賓挨拶

乾杯

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長

当法人理事長

野村 知司

倉田 清子

【第2日目】9月29日(日)（司会者：坂田和夫副会長）

10:30～12:00 特別講演「支えること 支えられること」

講師：社会福祉法人全国社会福祉協議会会長

次期開催地挨拶

北海道支部長

太田由美子